公益社団法人千葉県隊友会　令和7年7月号（2025.7.31）

館山支部だより　Vol.129

＜支部連絡窓口＞
千葉県隊友会館山支部
事務局(代表)川村　巌
〒294-0032 館山市笠名1357
℡ 0470-22-0230

≪可憐な日本朝顔・1年草≫
かたや多年草の琉球朝顔は、その繁殖力たるやすさまじく、2階の屋根まで絡みついて閉口させられたことがあります。
＜拙宅の庭先から＞

かつて国連の事務総長が強調した「地球沸騰化」が現実のものとなった感があります。連日のように報道される「危険な暑さ」は時候の挨拶言葉を変えなければ通じないですね。猛暑に止まらず地球上発生している”異常気候現象”を考えるとき、嘆いているだけでは済まないのです。世界中に物議を醸している関税問題とともに「掘って掘って掘りまくれ！」発言は、無責任極まる考え方だと思うのです。
「沸騰化の予防・軽減」は、国や自治体、大企業だけの問題ではなく、市民、家庭、個人の問題でもあることを再認識することが不可欠だと思います。　≪川村　記≫

支部の活動概要

≪6・7月の活動実績≫
6. 1(日)　旧海軍館山砲術学校
　戦没者慰霊祭（佐野・館砲校跡）
7.　5(木)　県隊友会前期支部長等会議(千葉市)
7.25(金)　第21航空群に隊友会感謝状伝達
7.26(土)　7月支部役員会（コミセン、8.2に延期）

≪8・9月の活動予定≫
9.27(土)　9月支部役員会（コミセン）

第21航空群に隊友会本部感謝状贈呈

令和7年度隊友会本部定時総会(2025.6.24)において、隊友会の拡充発展に尽力し顕著な功績を上げた部外団体として海自第21航空群に対して感謝状が贈呈されました。
7.25(金)群司令公室において感謝状伝達式が行われ、菊地千葉県隊友会会長から第21航空群司令(当日は群司令不在のため菊地首席幕僚が代行)に感謝状が伝達されました。
なお伝達式には県隊友会の日向参与(館山支部顧問)と館山支部長が陪席しました。
≪館山支部長≫

感謝状の伝達を終えて
群司令公室にて　2025.7.25
（日向顧問撮影）

アンケートに基づく 隊友紙の配付について

7月5日の県隊友会前期理事役支部長会議の場で、「隊友紙の配付(要否)に関する調査」結果の集計が示されましたが、県全体として「未回答者」が半数以上を占めており、調査の信頼性の点で釈然としないものがありました。　県隊友会としては、未回答者を「配付不希望者」としてこの7月号から調査結果に基づく配付を行うことになりました。
調査結果は支部により大きな差がありますが、館山支部としては配付希望者12名、配付不要99名(未回答含む)で希望者のみに配付しますが、支部機関紙(支部だより)については　従来どおり会員全員に配付することにします。
なお、*〇新聞手配りに対する助成金(支部活動の希少な財源)の問題*
〇隊友会の諸情報を得る上での方策等の問題
については今後県に対して要望するとともに支部の課題として鋭意検取組む所存です。
＜館山支部長＞

紹 介：地域社会で活躍する特別会員

7月15日の房日新聞第2面に「安房のカイシャ」と題して　”リスクマネージメント株式会社”が特集されておりました。この代表取締役の間立徹氏は、実は県隊友会の特別会員で今日まで20年以上館山支部の一員として活動にも関わってもらっています。
私が館山支部長になった平成16(2004)年に、氏は当時の損保会社東京海上の館山支社で将来代理店の設立を目指す研修生として勤務しておりましたが、(小生がかつて東京海上に勤務したよしみもあり)特別会員として入会を快諾してもらった経緯があります。
研修を終え、3年後(2006.8)には市内の一郭に「リスクマネージメント(㈱)」を創設し、 その時の様子は本号で「リスクマネージメント㈱設立でスタート！」として紹介してもらったことがあります。保険屋の立場として「(保険の)カケ過ぎ(漏れ、ダブリ)とカケ不足」を見出し、顧客の立場に立って最適な保険の組み方を考え、顧客にアドバイスすることを経営のモットーにしているということで、私もそれまでの住宅火災保険を大幅に組み替えてもらい、現在もそのまま継続しております。《損保も保険内容の組立てにより、保険料の負担軽減やいざという場合に大きな救いになるのです。 保険の更改(定期更新)時などに一度診断(見直し)してもらうのも手だと思います。末尾に参考として リスクマネージメント㈱の住所等を記しておきました》
氏が館山商工会議所青年部の第60代会長に抜擢された2018年は、同会の創立60周年記念にあたり、城山まつりなど多彩なイベントを取り仕切るとともに、館山航空基地の格納庫で行われた記念式典では、21航空群司令の「防衛講話」に続いて会長式辞を述べております(写真)」。 これは式典のため基地の格納庫を借用したということではなく、「商工業を通じて地域社会の健全な発展に寄与する」という青年部の設立綱領の趣旨に沿って、昭和28年に館山基地と同時期に発足した青年部が、館山市の人口の5%近くを占める基地の隊員・家族が館山市に溶け込み、市の経済的な発展に欠かせぬ重要な役割を担っているとの認識のもとに、 この関係をさらに深め発展させようという思いがあったからと言われております。
現在市内高井にある代理店は元レストランの建物を買い取ったとかで、周囲を田園に囲まれた自然環境と一見オフィスとは趣の異なる瀟洒な店構えは、顧客に与える印象とともに社員全員が仕事を楽しみつつ、顧客に満足してもらえる保険を目指して 社員一丸となって仕事に取り組むことができる職場環境を、という思いがあったものとお見受けしました。　≪支部長　川村　巌記≫

＜参　考＞リスクマネージメント㈱
〒294-0041 館山市高井1546
℡0470-24-3611

⇦ ＜写　真＞
2018. 8　館山航空基地格納庫で行われた青年部創立60周年記念式典にて開会挨拶を述べる間立青年部会長

「戦争の記憶を語り継ぐ」ことについて

間もなく8月15日がやってくる。この時期になると全国紙、地方紙を問わず出版業界等競って”戦争”を取り上げ、特集や短文記事を競い合う。 全国紙のデジタル版には戦争関連のコンテンツが充実し、一例として投稿データベース「声・語り継ぐ戦争」は、デジタル版ならではの「戦争と平和を語り継ぐ記録」として、特に戦争の実態を知らぬ若者には人気があるとか。
”戦争の記憶を語り継ぐ”ことには何ら異存はないが、”正しい記憶を”とか”戦争の真実を”といった修飾フレーズが欠落している点が大変気になるところである。
館山では戦争遺跡と称する旧軍の構築物が各地に残っている。 平成18年頃、館山市の企画で有識者やその筋の専門家等による市内の戦争遺跡をテーマにした調査研究が行われた。
調査報告書には「赤山地下壕は戦争末期の昭和19年初めころに着工し、未完成の状態で終戦を迎えた」と言う見解が示され、現在の赤山地下壕の入口案内板にも公的な見解として示されている。
ところが「赤山地下壕は、開戦前から”専門の工作部隊”の手で秘かに工事が進められていた”」という説を唱え、地下壕の案内板の表現もそのように訂正すべき」と主張する有識者等が現在でもまだ後を絶たない。
紙面スペースの関係上具体的な説明はできないが、赤山地下壕の建設根拠、着工時期等については、
〇国防理念・・ここでは空からの攻撃(空襲)に対する防衛思想等
〇大事業(ﾋﾞｯｸﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ)を行うための法令の根拠(「海軍建築部令」は現存)
この2点から容易に結論(事の真偽)を見出すことができるのである。
最後に、これらの反論の出所を尋ねると、いずれも「戦前、館山基地に勤務していた職員(書記、技官等)の”証言”」に帰するのである。
≪自称館山地域史探索マニア　その51≫